

目標: イスラエルの歴史を振り返ってエルサレム城壁の再建の意味の深さに触れ、主により頼む者は主  
 聖句: 「この日はわれわれの主の聖なる日です。憂えてはならない。主を喜ぶことはあなた方の力です。」  
 時間: 10分  
 道具: ホワイトボード、ペン  
 対象者: 小6×1 小5×1 小4×1 小3×1 小3×3 小1×2 未就園児×5  
 留意点: 前回は合同礼拝であったのでCSをしていない。故に今回は概観的に、イスラエルの歴史全体が

段階	時間	教師から	子供に予想される反応
課題確認	2分	ネヘミヤは、エルサレムの城壁再建をイスラエル再建の目的としていました。今日は、これがどんなに大切なことだったのかを学んでいきたいと思います。	
課題探究	6分	<p>イスラエルの歴史の最初はアブラハムにさかのぼります。アブラハムと神様はどんな約束をしましたか。</p> <p>その後、彼らは飢饉のためにエジプトへ行きました。だれがエジプトから連れ帰ったんですか。モーセがいつも困っていたのはなんですか。</p> <p>ヨシュアによってカナンへ戻った後も、士師記に書かれているように、民は神様を忘れては失敗し、反省することの繰り返しでした。</p> <p>ダビデ王様が立てられて、国は神様のもと安定しましたか。</p> <p>ダメだったのが続いた結果、どうなったんですか。もしみなさんが神様だったら、ここまで裏切る人を、どう思いますか。</p> <p>城壁が再びできたということは、神様がなおイスラエルの人々を守り導こうとしている証拠でした。ネヘミヤは、神様の力で神様の業ができたのでした。主を喜ぶ人は、御言にあるように神の力をいただくことができます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子孫から救い主が生まれる</li> <li>・忘れた。</li> <li>・モーセ</li> <li>・イスラエルの民の不信仰</li> <li>・分からない</li> <li>・ダビデ王の時は安定したが、その後はダメだった。</li> <li>・国が滅んだ。</li> <li>・捨てたくなる。</li> <li>・かわいそうに思う。</li> </ul>
まとめ	2分	<p>神さまの真実さに、さらに信頼を深めてほしいと思います。</p> <p>暗誦聖句</p>	

きせであることを学ぶ。  
。ネヘミヤ記8:10」

ら城壁再建を考えさせたい。

<p>備考</p> <p>国民を守る力がないと、国として成立しないことに軽く触れておくと、城壁再建は国再建であるとの理解がし安いだらう。</p> <p>年表にして、書き込んでいきたい。 分からなければ、時間との兼ね合いで教師側が答えを出してよい。</p> <p>これは出ると思う。 不信仰を前にしたモーセの困難を思い起こさせたい。</p> <p>この士師記に該当する事柄は、込み入っている面があるので、教師側からの提示とする。</p> <p>子供たちには、いろいろな実例を挙げさせて、自分でまとめさせてやりたい。</p> <p>バビロン捕囚の原因であり、ネヘミヤの苦闘の大元である。 かわいそうなど同情的な答えは、趣旨から外れることになるのだが、神様の思いそのものに当たるので、褒めてあげたらいいと思う。</p> <p>ネヘミヤにはまず神様を喜ぶ人であったことが前提にあるので、それを敷衍してまとめたい。</p> <p>183号テキスト全体のテーマからの反映として、この事柄を信じて取り組ませたい。 今回の聖句は、ぜひ覚えさせたい。</p>
--